

あいあい教室における

地域支援の実際について

京都ライトハウス 視覚支援 あいあい教室

古川 千鶴・廣瀬 亜紀子

- (1) あいあい教室の紹介
- (2) あいあい教室での視覚障がい疑似体験会について
- (3) 地域の保育園での職員向け研修会について
- (4) その他の事例
 - ・京都府内訪問支援
 - ・児童館での啓発企画
- (5) まとめ

(1) あいあい教室の紹介

- ・ 京都ライトハウス
- ・ 0歳から就学前まで・・・児童発達支援（居宅訪問・保育所等訪問）
- ・ 小学1年生～高校3年生まで・・・放課後等デイサービス
- ・ 視覚に障がいのある、または不安のある子どものための親子教室
- ・ 京都府内、あるいは近隣の他府県から通園
- ・ 通園指導と訪問指導

京都ライトハウス



あいあい教室 (玄関)



あいあい教室(プレイルーム)



保護者懇談室



放課後等デイサービスの外観



通園プログラム（児童発達支援）

	9:45	10:00～10:30	10:40	11:30	11:45	13:00	13:30 (月・火13:15)
こども	登園 身支度 ノート入れ タオル掛け等	<u>朝のあつまり</u> 歌や楽器遊び体を動かしてリズムをします。 <u>排泄練習</u>	* <u>課題遊び</u> 保護者と別れて遊びます。	<u>排泄練習</u> <u>給食準備</u>	<u>給食</u>	<u>自由遊び</u> <u>片づけ</u>	<u>帰りのあつまり</u> <u>降園</u>
保護者	<u>朝のあつまりに参加</u> リズム遊びをしますので、保護者の方も動きやすい服装で参加してください。		10:40～11:30 <u>保護者グループ</u> 保護者支援担当職員と懇談や情報交換を行います。		<u>昼食</u>	13:00 <u>保護者への報告</u>	

年間行事予定

	月 日	内 容	
前	4月5日(月)	通園始まり	
	6月17日(木)	視覚障がい疑似体験①	
	19日(土) 23日(水)	視覚障がい疑似体験② 視覚障がい疑似体験③	
期	7月上旬～ 中旬	経験交流「先輩お母さんの体験談を聞く」 プール開き(予定)	
	20日(火) 7月28日(水)	歯科検診(京都歯科サービスセンター) きょうだい児のつどい(小学生対象)	
	8月29日(日)	お父さんたちと遊ぼう会	
	9月～	前期個別懇談	
後	10月	親子遠足	ライトハウスまつり
	11月	眼科学習会	視覚障がい乳幼児研究会 (大阪大会/オンライン開催) ★保護者も参加できます
	12月19日(日)	クリスマス会	
	1月下旬～	後期個別懇談	あい・らぶ・ふえあ
	3月下旬	卒園を祝う会	

★乳幼児期の支援の大切さ

- ・子どもへのていねいな療育

- ・家族への支援（母・父・きょうだい）

- ・地域生活の支援（保育園・幼稚園・通園施設など）

★啓発の大切さ ➡ 支援者の連携 ➡ 子どもを守る

(2) あいあい教室での視覚障がい疑似体験会について

(保護者と並行通園先の先生向け)

①目的

視覚障がいの子どもたちは周囲の状況をどのように感じ理解しているのか、身近な大人はどう接していけばよいのか。

実際に子どもの生活や遊びを交えた、見えない見えにくい体験をすることで理解を深め、より良いサポートの輪を築いていく。

②日程

毎年、新年度が始まり少し落ち着いてきた6月頃
実施。

(昨年度と今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため11月に延期)

平日に2日間、土曜日に1日 合わせて3日間。

③過去5年間の参加人数

2016年	23カ所28人	保護者30人
2017年	29カ所40人	39人
2018年	31カ所43人	33人
2019年	47カ所65人	38人
2020年	21カ所21人	保護者の参加なし

④当日のスケジュール

10:15～オリエンテーション(体験の目的と流れの説明)

10:30～アイマスクや弱視疑似メガネを用いた体験

11:50～休憩

12:15～アイマスクでの食事体験

13:30～あいあい教室見学兼交流

14:30終了

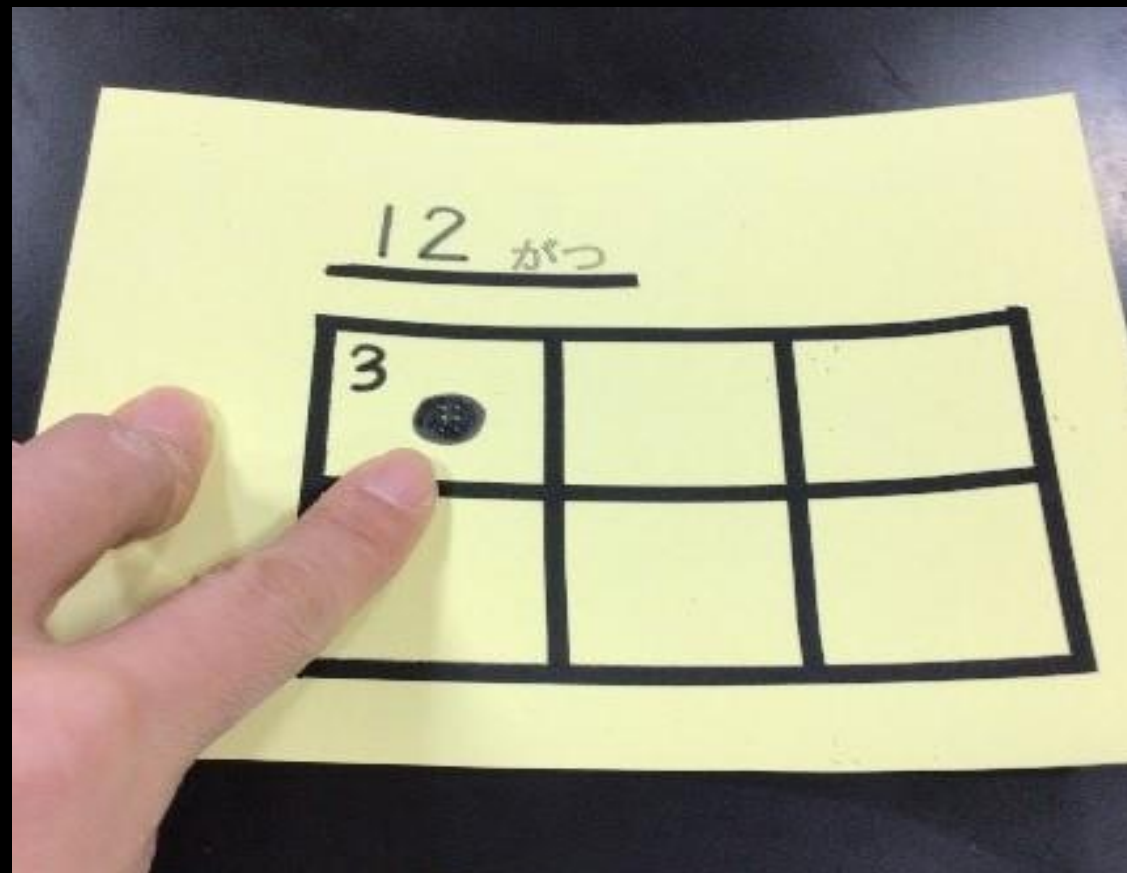
※2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため食事体験なし。

⑤全盲の体験

- ・アイマスクをしての移動、探索の体験
- ・手引き体験
- ・実際に触って知る経験
- ・声掛けや言葉による説明

鈴入りボールで転がし遊び

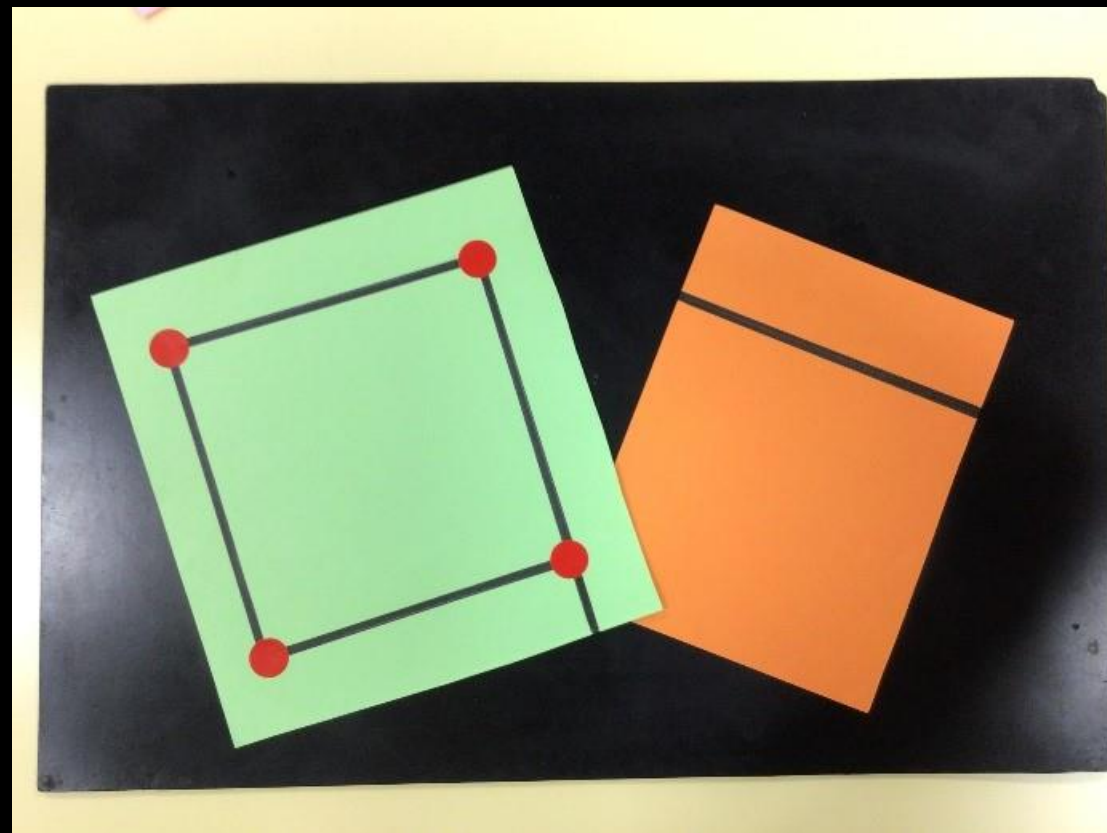
レトララインテープで枠線
シールを貼る位置を触れるように工夫



⑧ 弱視の体験

- ・シミュレーションレンズを使用した体験
- ・絵本の読み聞かせ
- ・シール貼り等、机上の操作
- ・単眼鏡やiPad、ルーペを使って見る体験

シミュレーションレンズをつけて 単眼鏡で遠くを見る体験



はさみで線の上を切るときに
角を意識しやすいように工夫

アイマスクやシミュレーションレンズを用いた食事体験

食事や食事道具の工夫や方法の紹介



あいあい教室の見学

あいあい教室の環境・玩具・教材他の紹介

並行通園先、関係機関の先生方の交流



◆＜体験後の感想＞

- ・見えにくいことで聞こえ方も変わり、その子の楽しみや心地よさも大きく変わることがわかった。
- ・遊びの面から楽しみや安心を増やしていきたいと思った。
- ・アイマスクをすると部屋の空間が広く感じたり、音や感触等をしっかり確かめないとわからなかったりと不安が大きいことがわかった。
- ・簡単な言葉がけだけでは、目が見えない子どもにとってすごくわかりにくいことを知り、言葉を使って伝えることを大切にしていきたいと思った。
- ・他園の先生と話せたのも良かった。
- ・絵本の読み聞かせでは思っている以上に見えにくく、子どもが集中できなかった理由がわかった。相手の表情が見えにくい分、声の高さや優しく声をかける大切さに改めて気づいた。

(2020年度「視覚障がい疑似体験会」のアンケートより抜粋)

(3) 地域の保育園での職員向け 研修会について

(保育園で職員研修の一環で位置づけ)

- ・保育園の教室・廊下・靴箱などを使い、子どもたちが普段行う遊びや生活動作の一部を、子どもに合わせた見え方のアイマスク／シミュレーションレンズなどを使用しながら先生方に体験してもらう。
- ・保育園で行うことで、多くの先生方がリラックスした雰囲気の中で参加できる。
- ・子どもの見え方や気持ちを想像しながら、どんなふうに関わったら分かりやすいかなど、先生同士で交流する機会にもつながる。

研修会の進め方

- ・園の職員向けに研修会を提案する。
- ・内容や時間／時間帯については、園と事前に相談する。
- ・園の希望を聞いておいて、内容に取り入れる。
- ・園にもできる準備などを協力してもらう。

【事例】

- 19:00 あいあい教室の紹介／視覚障がい児の特性や関わり方
(園に通う子どもに合わせて)
- 19:30 疑似体験(園に通う子どもの見え方／可能なら保育室などを使う)
- 20:00 感想／質疑応答／まとめ
- 20:30 終了

研修会の感想

- ・アイマスクをして部屋の中を歩くのも不安があり、となりの人の動きが見れないので、ぶつかってしまったりすることが多かった。
- ・普段見慣れている部屋でも、アイマスクを付けると怖い気持ちが出た。距離感がつかめない。
- ・使い慣れた部屋なのに、見えないと不思議な感覚が出た。
- ・お茶やお菓子のグミを食べると、何の味かわからなかった。視覚の大切さがわかった。
- ・怖い気持ちが出たが、よい体験ができた。

(4) その他の実践

① あいあい教室が遠方で普段通園できない、 京都府内の子どもたちに対する訪問支援

- ・ 自宅への訪問（子どもさんと関わる／保護者の方とお話し）
1時間半位を目安に
- ・ 時間帯は保護者と相談（概ね 0～2歳 午前／ 3～5歳 午後）
- ・ 事情で自宅への訪問ができない場合、保育園などへ訪問

保育園での工夫

靴箱



渡りろう下



自分の机



糊



クレパス

絵本コーナー



絵本を触れるように加工



数字カード



②京都ライトハウスに近い 児童館での啓発企画 (子ども向け 視覚障がい疑似体験会)

【事例】

- ・10:00 お話し／アイマスクをしてみよう／見えないってどんな感じ？
- ・10:20 手引き体験(点字ブロックの上を歩く)
- ・10:40 アイマスクをして遊ぼう(鈴入りボールでボーリング)
- ・11:00 感想・まとめ
- ・11:10 終了



点字ブロックで 手引き体験



アイマスクで ボーリング

子どもの感想

・アイマスクをつけて見えなかったとき、足の裏で点字ブロックを触って歩いた。手を引いてくれた人が話しかけてくれて、うれしかった(安心した)。

・点字でなにかかいてあるのを読んでみたいと思った。

・一緒にたのしめるのがよかった。

(普段は一緒に生活しているという認識だから?)



職員の感想

- ・アイマスク体験で初めてアイマスクをつけて、見えないのが「怖い」「不安を感じる」と感じた子どもは数名いましたが、マスクの着用が強制ではなかったのも楽しみながら学んでいました。
- ・手引き体験では、目の見えにくいお友だちに「手引き」という方法で手伝えることがあると知り、自分たちにも「手伝えることがあるんだ、手伝ってみたい!」という気持ちが芽生えたようで、アイマスク体験後にAくんを手引きしながら、児童館内にある点字を見ながら「Aくん、この点字なんて書いてるん?」と尋ねる1年生が6名いました。
- ・Aくんも点字を読むたび、お友だちから「へえ、(洗濯機の電源)入り、切りって点字で書いてるんや!」「こっちは何て書いてるの?」と頼りにされ、笑顔で答えていました。

職員の感想②

・ブラインドボーリングで、夕方は高学年の子どもたちが興味を示し、Aくんも誘って、手を叩いてボーリングのピンの位置を分かるようにしながら、一緒に楽しく遊んでいました。高学年の子どもたちは、Aくんとの関わりが長い分、ブラインドボーリングをする際も、音が大きめに分かるように手をたたいたり、「こっちだよ、Aくん」と声をかけていたり、「すごい!5本倒れたで!」など、Aくんにも伝わりやすいよう声掛けしてくれている姿が印象的でした。

・触る絵本にも、興味津々で、「布やと確かに形がわかりやすいな」「立体的だから触って形がわかる!」と、触る絵本を見たり触ってみて呟いてる子どももいました。

地域支援で大切に思うこと

★「指導する／教える」姿勢が出すぎないように、
お互いがリスペクトしあえる関係性を 築けるようにする。

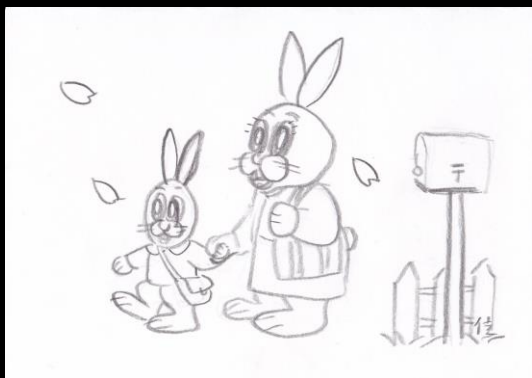


『専門機関』というハードルを下げて、お互いが気負わずに話ができるように。

★あいあい教室と地域の園との関係性ができてきたタイミングで、
あえて保護者から園に聞いたり伝えてもらう機会を作る。



今後、保護者が地域や学校とやりとりできることを見据えて。



どうもありがとうございました・・・

